

湘南藤沢学会「研究助成基金」

活動報告書

政策・メディア研究科修士課程1年

本間万理 (81264812)

2016年5月度応募

活動の概要

ECO EXPANDED CITY 2016 は欧州文化首都であるポーランド・ヴロツワフの地で2016年の一年間を通して開催される様々なイベントの一つである。大きくは、Nature（自然）と Human made（人工）がいかにして均衡をとり、それらが活かされた作品を現代の私たちが創り得るかということに焦点を当て、最新のアイデアと技術とが披露される場となった。

私たちは出展者の一人である鳴川准教授とともに海を越え会場に赴き、それら作品群を以下の5つの視点で観察し、分析した。

- 視点① その作品が創作された目的、問題意識
- ② 分野の融合（ITとスケッチ、音楽とスポーツ など、分野を超えた作品の豊かさを考える）
 - ③ そのアーティストと作品がキュレーターによって選ばれた理由
 - ④ アーティストと作品の世界観
 - ⑤ その作品によってどのような問題が解決され、いかなる未来が想像できるか

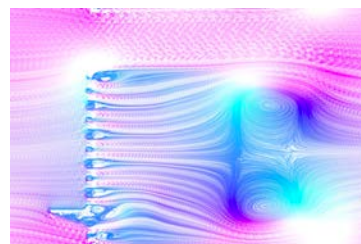
観察の結果：考察した作品のいくつかについて述べる

Furnished Fluid

/ 脇田玲 (JP)

歴史の中で絶対的な評価を得てきた「名作椅子」のデザインを新たな方法で「評価」するためのツール：椅子を通り超える風の流れをシミュレーションによって可視化する。その椅子のデザインがつくる風の流れを一つの評価基準とし、可視化。

- ① デザインを評価すること。これまでの歴史で「よい」とされてきたデザインを物理的に評価する。美を物理的に裏付ける。
- ② 「感性（美）」「理性（物理）」
- ③ 何気ないデザインを現代の方法（新たな方法）で評価することによって、新しいものの見方を与える。
- ④ デザインの再評価
- ⑤ 「この椅子があることによって空気の流れはこのように変わる」→「空気の流れをこのように変えるための椅子をデザインする」：風をコントロールする家具がいずれ商品化されるだろう。



<http://anytokyo.com/2014/exhibition/textiles.php>

**Botech Compositions**

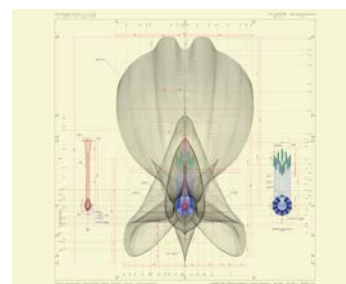
/ 村山誠 (JP)

花や野草を図面として描く。自然の有機的な曲線と図面の無機質さが均衡したところのメディアアートは、ボタニカルイラストレーションの新しい可能性を私たちに見せつける。デフォルメした自然ではなく、限りなく精密にトレースしそれをパターン化し、タイリングしていく。ありそうでなかった文様

- ① 自然を人間がトレースし、自然の図面が出来上がる。自然と人工の狭間を行き来する取り組み
- ② 「美術」「科学」
- ③ メディアを駆使して自然の美しさを余すところなく描くが、それは古来「花の描写」とは異なる表現で、現在の技術をもって自然を見つめるとどうなるか、現代に訴えかける。
- ④ 自然に没頭してはいるもののそれを冷たい無機質なものとアウトプット
- ⑤ CAD を使って絵画のような美しさが追求できる



<http://wrocenter.pl/en/botech-compositions/>

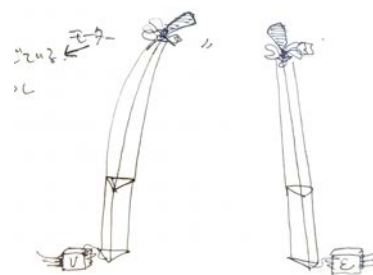


<http://anytokyo.com/2013/exhibition/40>

Vincent and Emily**/ Carolin Liebl + Nikolas Schmid-Pfaehlen (US)**

恋人を模した一対のメカクス「ヴィンセントとエミリー」
他方のマシンとの「関係性」と周囲環境との「関係性」とを認識し反応するようプログラムされている

- ①人間は感情と意志と個性により他に類を見ないほどそれぞれが個性的である。しかし一見してみれば彼らの行動や相手に対する反応はパターン化され、それがもっとも顕著に現れ、かつ低俗な「恋人」というありふれた関係性を思い切ってプログラム化しマシンに再現させる。機械と人間の間にあった隔たりが霞む
- ②「心理学」「機械」
- ③マシン同士が痴話喧嘩している点が単純に面白い。機械における「愛」とは何か？を考えさせられる。同時に恋人は「不賛同」が主な態度であることを反省させる
- ④機械に「愛」をプログラムすることはすなわち「相手への不賛同」をプログラムすることである
- ⑤鑑賞者が2台のマシンに自分自身を投影する。生物のようなマシンの可能性やアートとしての面白さの開拓に拍車がかかる



<http://newfrankfurtinternationals.de/index.php?id=87&L=1>

Junkspace**/ Lynn Cazabon (US)**

宇宙空間に散乱する「宇宙ゴミ」を可視化する
可視化されるのは実際その位置に漂う物体の形ではなく、「携帯」「冷蔵庫」などあらゆる工業製品である

- ①宇宙に我々が作り出した「ゴミ」がいかに多いか。そしてそれらは我々の身近な製品の残骸であったりする
- ②「科学開発」「産業」「社会問題」
- ③宇宙に携帯がそのまま浮いているわけがない。地球の周囲はゴミだらけである。シリアスな問題をデフォルメしコミカルに描く。
- ④人間の開発欲と宇宙への憧れが宇宙を汚している
- ⑤環境問題は地球だけでなく宇宙空間にも及んでいることを私たちに認識させる



<http://2012.zero1biennial.org/lynn-cazabon-neal-mcdonald>

今後の研究に向けて

自然ほど美しいものはない。自然の物理法則、理論、理論から外れる理論、それらを追い求めるデザイナーの意欲とには感動せざるを得ない。自然は美しいが、美しさが目に見えないものも多い。自然が本来持つ美しさが損なわれないようデザインに落とし込む姿勢は、「元あるものにどのように手を加えるか」という私がいつも考えあぐねる手法について参考になった。

私たち人間自身が自然であり、この展覧会ではそのことを実感するとともに、自分を取り巻く環境との共存についても考えさせられた。

最後に

最新の作品群に触れるということはいつも、XD プログラムで研究を続ける私たちの強い願いであり、意志です。誰からの援助も無くとも時間と財力の許す限りあらゆる場所に足を運ぶ覚悟は常にあるものの、今回のように助成金を公式にいただくということは、私たちの学ぶ姿勢が正しいという自信となり、より良い成果を模索し成し遂げるための石杖となりました。私たちの研究姿勢を認め、温かな援助を下された湘南藤沢学会ならびに関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。